

[2] 鶏卵取引

鳥インフルエンザに対応

編集部

「ずいぶん高いな」。2004年8月、大手食品メーカーの購買部長、鶏卵太郎は、誰にともなくつぶやきました。

04年3月、鳥インフルエンザの影響で、鶏卵相場は近年にない安値に落ち込んでいました。丹波の養鶏場が鳥インフルエンザを隠して鶏を出荷、それが大問題になり、その余波で鶏卵が敬遠され、需要が激減したからです。ところが、鳥インフルエンザが終息するとともに状況が変わり、夏場に入ると鶏卵相場がジワジワ上げてきたからです。

前年同期より1キロ20円も高い

もともと、鶏卵は需要の少ない夏場に価格が低下、ケーキなどの需要が多い12月に価格のピークを付けるのが一般的でした。04年は6月の平均価格が1キログラム178円だったM（中くらいの鶏卵）が、8月は150円を割り込んだものの、前年同期より20円近くも高かったのです。

「なぜだ」。鶏卵太郎は早速、調べてみたところ、大変なことが分かりました。鳥インフルエンザの影響で飼育頭数が減っているうえ、春先の鶏の孵化数が03年は3月が1,064万羽、4月が1,081万羽だったものが、04年は3月が988万羽、4月には903万羽と100万羽以上少なかったのです。鶏は生後半年程度から卵を産み始め、1年半程度は生み続けますが、これでは冬場の需要期には、供給不足は必至

です。

「この調子では冬には鶏卵相場が暴騰して大変なことになるかもしれない」。鶏卵太郎は早速、年末に備え、液卵の買い付けを指示しました。それでも不安を感じていた鶏卵太郎は以前、商品取引員の登録外務員が言っていた鶏卵先物取引のことをフツと思い出しました。「もしかしたら役立つかもしれない。ちょっと詳しく聞いてみるか」。そう考えた鶏卵太郎は外務員の名刺を机から捜し出し、電話に手を伸ばしました。

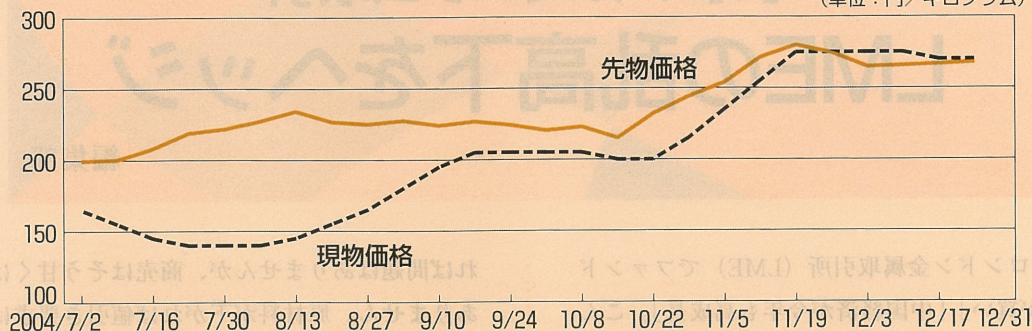
12月限を10枚買い

「いま先物で買っておけば、現物価格が上がったとき先物価格も上がる確率が高いので、将来、現物の価格が上がっても、安いときに現物を購入したのと同じことになります」。外務員の説明は明快でした。それでも、不安だった鶏卵太郎は商品先物取引の本を買ってきて研究しました。

それから1週間。鶏卵相場はジワジワ上昇。下がる兆しはありません。そこで、鶏卵太郎は価格高騰のヘッジに先物取引を利用してみることを決心。12月限（＝12月決済物）を10枚（1枚は1トン）買ってみました。これは鶏卵太郎の会社が1カ月に使う量の約半分です。価格は1キログラム220円。このとき、現物価格はすでに200円に乘せていました。それから1カ月余り。先物価格は210～220

鶏卵相場の推移

(単位：円／キログラム)



(注) 先物価格は中部商品取引所2004年12月限、現物価格は東京全農卸値M、いずれも週末値

円であり大きな動きはありません。一時、大きく上がった現物価格もやや上げ一服の状況です。「なんだ、ヘッジする必要がなかったかもしれないな」。鶏卵太郎がそうつぶやいた10月中旬、現物相場が突如上昇、11月には1キロ250円を突破、かつてない高値になりました。つれて先物相場も急上昇、あれよあれよという間に250円を突破、11月には270円、12月には280円に達しました。

現物高をほぼ相殺

「鶏卵、物価の優等生を返上」。ちまたではこんな声が上がリ、「鶏卵を大量に使うマヨネーズメーカーが減益になりそう」との記事も新聞に躍りました。

「そろそろ潮時かな」。そう考えた鶏卵太郎は10枚の決済売りを指示しました。売却価格は1キログラム280円。買値より60円高かったので、1枚ではその1万倍の60万円、10枚では600万円の利益が出ました。かかった費用は商品取引員会社に支払った委託手数料の4万2,000円だけで済みました。

もっとも、鶏卵太郎はこの分をそっくり儲けたわけではありません。この間、鶏卵の現物価格も70円ほど上昇し、270円になってい

たので、その上昇分とほぼ見合ったからです。つまり、鶏卵太郎の利益は現物の値上がりで相殺されましたが、現物を270円ではなく210円で買ったのと同じことになったのです。

まだまだ続く脅威

もちろん、この間、先物価格が下がっていれば先物取引では損が出ますが、現物価格も同じように下がるので仕入れ価格は下落。損はしません。先物取引を使うことは鶏卵の仕入れ価格を固定化したのと同じだったのです。

「このように使えば経営に役立つな。でも、鶏卵の仕入れ量以上に買ったりすると、上がった場合はいいが、下がった場合は損を出すな」。鶏卵太郎は1回の取引で先物取引の面白味も怖さも知った気がしました。ちょうど、そのとき、女子社員が持ってきた夕刊を見ると「ベトナムで鳥インフルエンザが発生、1人死亡」という記事が目飛び込んできました。

「この分では鳥インフルエンザの脅威はまだまだ続きそうだな。今度はもうちょっと増やしてみるか」。鶏卵太郎はリスクヘッジがうまくいき、勝利の味をかみしめるようにコーヒーを飲み干しました。